

新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）

事業名(主)	安心して声を発せられる地域づくり支援事業
事業名(副) ※任意	

入力数 主 20 字 副 0 字

実行団体名	特定非営利活動法人場とつながりの研究センター
資金分配団体名	公益財団法人信頼資本財団

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域		分野	
<input checked="" type="checkbox"/>	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/>	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		<input checked="" type="checkbox"/>	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		<input type="checkbox"/>	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/>	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	④働くことが困難な人への支援
		<input checked="" type="checkbox"/>	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/>	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	⑥地域の働く場づくりの支援
		<input checked="" type="checkbox"/>	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>	
------------------------	--------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_4.質の高い教育をみんなに
_11.住み続けられるまちづくりを
_16.平和と公正をすべての人に

実施時期	2021年5月 ~ 2022年2月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 (兵庫県神戸市北区[北神 区]および <input checked="" type="checkbox"/> 田市をまたがっての実 施)	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	生活困窮状態にあって、まわりに頼ることができ ずに抱え込んでいる子ども・若者とその家族	事業 対象者人 数	4圏域で50人を 想定
------	-------------------	------------	---	---	--	-----------------	----------------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
<p>この法人は、阪神地区を中心に、多様な地域課題の解決のために活動する、もしくはしようとしている人々や団体に対し、これらの人々や団体が集う場やつながりを創りだすこと、並びにそれらの活動を支援することを通して、豊かで活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。（定款第3条）</p> <p>中間支援NPOとして設立し、市の市民活動支援センター運営事業を受託。2012年事業終了後、不登校経験のある若者と出会い、子ども・若者をはじめとした居場所づくり・まなびの場づくりに取り組み始め、以降は困っているときに気軽に誰かに頼れることができる仕組みづくりを模索し、「市民だれにとってもまちの中でゆるやかにつながれるサードプレイス」がもっている状態を目指し、様々な場づくりやネットワークづくりに取り組んでいる。</p>
(2)申請団体の概要・事業内容等
<p>(1)相談事業：相談支援、認定NPO取得支援、事務支援など</p> <p>(2)ネットワーク形成事業：まちの読書カフェ、三田子ども支援者連絡会議など</p> <p>(3)人材育成事業：NPO向け講座の企画</p> <p>(4)情報発信事業：情報発信・収集 ※(5)地域情報化事業は現在実施なし</p> <p>(6)まちづくりコーディネーション事業：対話の場づくり、地域日本語教室（神戸市北区）、学生の社会参画・キャリア形成支援など</p> <p>(7)子ども・若者支援事業：子どもの居場所・学習支援「まなびあ」、子ども食堂「まかないキッチン」、児童館子どもヘルパー事業支援（神戸市北区）など</p> <p>(8)調査研究事業：住民調査支援、ユースワーク研究会（神戸・尼崎）、まちづくり協議会のあり方研究会（神戸市北区）、NPO事務人財の実態調査、コロナ禍におけるNPO実態調査など</p>

入力数 (1) 345 字 (2) 352 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
<p>当法人は中間支援団体として設立後、2013年から学習支援、2017年から子ども食堂、2019年12月から地域日本語教室事業に取り組んできた。コロナ禍でのボランティアな実践を行なったところ、次のような課題と向き合った。</p> <p>①休校期間中に生活保護世帯の中学2年生の欠食状態が判明し、週2回地域住民の食卓に入れていただく食事支援と、週1回ボランティアによる料理教室とを実施。関係性ができることで学習支援の場では話さないような家庭事情や親との関係について打ち明けられるようになり、職員と共有して支援策を検討できた。</p> <p>②日本語教室派生事業として「生活相談会」を2020年7月24日に実施。日本語教室利用者が参加し、体調不良を自分の状態を説明できないから病院に行けていないとのことだったため、同行支援を行ったところ、結核が見つかった。</p> <p>③県営住宅の子育て世帯35世帯を対象としたフードパントリーを2021年3月28日に実施。実際に取りに来た家庭は8家庭であり、たまたま遊んでいた子どもたちの導きで“家庭訪問”して直接渡すことができた家庭が8家庭であったが、「コロナ禍で転職して所得が半分になり、誰にも相談できず困っていた。ありがたかった」というアンケートがあった（自治会長も民生児童委員も把握していなかった）。</p> <p>①②は当団体の取り組みと関わりがあってSOSを出しやすい関係になっていたからこそ判明し、一歩を進めることができた。③は企画を通して声なき声に出会うことができた事例である。コロナ禍で「自分ががんばらないと」と我慢を強いられ、声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭の「声を拾えていない」のではないかと。困っている人自身の「助けてコミュニケーション力」を高めるために、安心できる人と出会う「一歩目の機会」を作ることが早急に必要でないかと考えるに至った。</p>

入力数 773 字

III. 事業内容

(1)事業の概要
<p>神戸市北区及び三田市内、<b>西宮市北部の裏六甲エリア</b>において困窮世帯が多くいる地域を主な対象として、誰にも相談できずに声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭の声を拾うことができる地域住民の「寄り添い人」を育成し、彼らの活動拠点となる学習支援・子ども食堂などの「居場所」の立ち上げや基盤強化支援を行い、既存の団体や専門家など子ども支援に携わる多職種連携のネットワークを作ることで、困っている人が安心して話せる地域住民と出会い「誰かを頼ってもいい」と感じてもらえるような経験をまちの中に多様に増やすことを目的に実施する。同時に、困りごとと出会い、専門機関につなぐためのアウトリーチ体制づくりを行う。</p>

入力数 297 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>3圏域</b>内において、困窮家庭50世帯の子どもや外国人のまなび・つどいの機会が継続的に保障されている。</li> <li>・ 子ども・若者支援に携わっている人たちが定期的に情報交換や研修が行える多職種ネットワークが<b>地域内</b>にでき、専門機関に気軽につなぐことができるようになっている。</li> <li>・ 文化圏を共有し隣合わせにあるものの、地方自治制度のために切断された神戸市北区・三田市・西宮市北部とを、市民活動レベルで交流・接続する。</li> </ul>

入力数 198 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>学習支援や子ども食堂など、定期的で開催している子どもが立ち寄り、相談できる場を、<b>3圏域</b>にそれぞれ<b>複数</b>できている。<b>地域の居場所が頼れる居場所同士のつながりができている。在住外国人が困ったときに相談できる場が定期的で開催されている。一人暮らし・困窮学生が困ったときに相談できている。地域内で食材等が循環される体制ができている</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門機関へつなぐ件数</li> <li>・ 実施拠点数、学習支援・子ども食堂の利用者数</li> <li>・ 関係先への問い合わせ件数</li> <li>・ フードドライブ実施時の協力者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体および社協の相談窓口へのコーディネーション件数</li> <li>・ イベントでのアンケートの実施。</li> <li>・ 利用者へのアンケートおよび一人ひとりへのヒアリング</li> </ul>	<p><b>3圏域</b>にて合計10の居場所を作る。</p> <p>参加者数は各地域の困窮家庭の40%が参加できている<b>受け皿を地域につくる。</b></p> <p><b>20人・社からの食材提供。10人のボランティアスタッフがいる</b></p>	<p>2022年2月</p>

(4)活動	時期
①寄り添い人の育成・ネットワークづくり：	
(1) 困っている人に寄り添うための講座（全2回）【学習会・交流会】	2021年12月～2022年2月
(2) 多職種連携の子ども支援ネットワーク会議の立ち上げ・運営【情報交換・交流会、全3回】	2021年7月～2022年2月
(3) 活動団体のスキルアップとつながりづくり【学習会】	2021年9月～2022年2月
②声を集める、声が集まる機会と拠点づくり：	
(1) 立ち上げ・伴走支援： 居場所・学習支援（毎週1回開催）、子ども食堂（月に1回開催）【コンサルティング、15箇所】	2021年7月～2022年2月
(2) 困りごとを持つ子ども・若者、家族との出会いの場づくり：フードパントリー、プレーパークなど遊びの場の提供【新規実践または協力事業】	2021年6月～2022年2月
③アウトリーチの方法論確立に向けた取り組み：	
(1) 困っている人への困りごとを集めるアウトリーチの実践	2021年6月～2022年2月
A) コロナをきっかけに孤立する在住外国人の声を聞く取り組み	2021年6月～2022年2月
B) 子どもを中心としたまちづくり支援	2021年10月～2022年2月
(2) 受援力向上のための研究会（全3回）【学習会】	2021年9月～2022年2月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>これまでは有給職員1名に多くのボランティアが関わる体制で取り組んできたが、コロナ禍における「課題の潜在化」に対する支援は緊急性の高い取り組みであると考えており、同時に本事業を起爆剤として継続的に支援が行える体制に整備するために、有給職員を新規に雇用して事業に臨みたい。</p> <p>大島理事兼事務局長がプロジェクト全体の管理を担う。福祉職・看護職の経験のある者など現場事情の理解が深い人材を雇用し、「声を集める」ためのネットワークづくりおよびアウトリーチ体制づくり、相談支援を担当する。当団体に関わる大学生ボランティア10数名も、内部研修を経て特に子ども・若者支援の現場活動の一翼を担って取り組む。管理部門責任者として佐藤理事(非常勤)が参画し、経理等組織の透明化を図る。</p>
(2)他団体との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども支援に携わる多職種メンバーが集い、当団体が世話役を行なっている「三田子ども支援者連絡会」も地域アプローチの際に協力いただく。また、当団体のネットワークにつながっている地域活動者や士業（弁護士）や民生児童委員などにもプロジェクトに参加していただく。</li> <li>兵庫県(住宅政策、NPO支援等)、神戸市(まちづくり全般、国際等)、三田市（子育て支援、生活支援、地域活動担当等）、神戸市北区社会福祉協議会、三田市社会福祉協議会と日頃から関係があり、本事業で連携を深めて取り組む。特に、近い将来の施策化を目指し、行政と情報・データの蓄積などで協働して取り組むなど、アドボカシー機能も果たす。</li> <li>子ども食堂やフードパントリーではコープこうべ・(株)神戸物産にも支援いただいております。フードバンク関西や地域企業など新たな連携先を模索したい。</li> </ul>
(3)想定されるリスクと管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ活動や現場における感染症対策を徹底するとともに、活動中および道中での事故やケガ、器物破損、食中毒、コロナ感染に対しては、Chubb損害保険会社「団体総合補償制度費用保険」「賠償責任保険」に加入して対応する(事業によるコロナ感染にも、通院/入院費等の給付がなされる保険契約を4月より結んでいる)</li> <li>地域住民の何気ない声かけによる、子どもの心のケア → 臨床心理士による心の相談支援がいつでもできる体制を整えている。</li> <li>事業執行に関する問い合わせ窓口/苦情相談窓口を設置し、問い合わせ内容に対しては理事長を責任者、佐藤理事を担当者として理事会で対応する。</li> </ul>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
新型コロナウイルス感染症に係る事業			
①本申請事業について、新型コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）	
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績			
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの居場所・学習支援「三田まちな子の寺子屋『まなびあ』」を地域住民有志・学生と運営（2013～）、子ども食堂「まかないキッチン」を地域住民と運営（2018～）</li> <li>NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ「第3回子ども食堂基金」助成を受け、第1回フードシェアリング（2021.3.28）を実施。県営住宅自治会1箇所と連携し、公認心理師・社会福祉士のボランティアとともに実施。16世帯が食糧支援を受け、アンケートからさまざまな声が寄せられた。</li> <li>ひょうごボランティア基金「地域づくり活動NPO事業助成」を受け、冊子「子ども・若者の声を聴くためのハンドブック～新型コロナウイルス そのとき『現場』はどう動いたか」を制作し、発行（2021.3 PDFで公開）<a href="https://batotsunagari.net/youthwork_handbook2021/">https://batotsunagari.net/youthwork_handbook2021/</a></li> <li>神戸市北区まちづくり活動支援助成金を受け、地域日本語教室「北神日本語教室」を運営（2019.12～）。毎週水曜日18:30-20:00。ボランティア13名、参加者12名。 <a href="https://www.facebook.com/hokushinnihongokyouhitsu/">https://www.facebook.com/hokushinnihongokyouhitsu/</a></li> </ul>			